豊肥保健所（竹田市・豊後大野市）感染症情報

令和7年第27週（6月30日～7月6日）

ヘルパンギーナの報告がありました

今週の豊肥保健所管内の定点医療機関からの報告数は、定点あたり0.33人でした。大分県全体では、定点あたり5.78人と先週の3.94人と比較して増加し、特に大分市は定点あたり11.55人となっています。

ヘルパンギーナはウイルスが原因で起こる夏かぜの1つで、例年6～8月に流行し、子どもに多くみられます。発症すると、突然の高熱（39.0℃以上）やのどの奥の周りに小さな水疱や潰瘍がみられます。強いのどの痛みがあり、食事や水分摂取が困難になることもあります。ゼリーやアイスクリームなど冷たくてやわらかいもの、おかゆ、スープなど刺激の少ないものを少しずつこまめに与えましょう。予防のためには、手洗い・うがいを行うこと、タオルの共用は避けること、おもちゃやドアノブを定期的に洗浄・消毒することがあります。また、便中にウイルスが含まれ、治った後もしばらく排出されるため、おむつ交換や排便後はしっかり手洗いすることが大事です。

食中毒注意報が発令されています

梅雨明けとともに、気温の高い日が続いています。大分県では7月7日に、食中毒注意報（第4号）が発令されました。
高温多湿の時期は、細菌性食中毒が発生しやすくなります。食品の加工や保存には十分注意してください。

〈予防のポイント〉

・清潔（つけない）：調理前・食事前・トイレの後は手洗いを行うましょう。
　調理器具もよく洗い、肉や魚と野菜は別のまな板・包丁を使いましょう。
・迅速・冷却（増やさない）：調理後は早めに食べ、作り置きは冷蔵保存しましょう。お弁当には保冷剤を使いましょう。
・加熱（やっつける）：食材は中心までしっかり加熱（75℃以上で1分以上）しましょう。

（第２７週）

疾患名 ／ 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎（小児科県独自）	麻しん（全数報告）	風しん（全数報告）	百日咳（全数報告）	つつが虫病（全数報告）
0歳										0.33							
1～3歳																	
4～6歳		0.20							0.67		0.33						
7～9歳						0.33											
10～14歳																	
15～19歳																	
20歳以上		0.80															
今週		1.00				0.33			0.67	0.33	0.33						
70歳以上（再掲）		0.40															
先週		0.60				0.67		0.33	0.67								

*指定された医療機関（定点）から報告された患者数を、1定点当たりに換算して計上しています。（定点医療機関数；インフルエンザ5定点　小児科3定点）

疾患ごとの警報・注意報の基準値　※単位は定点あたり報告数

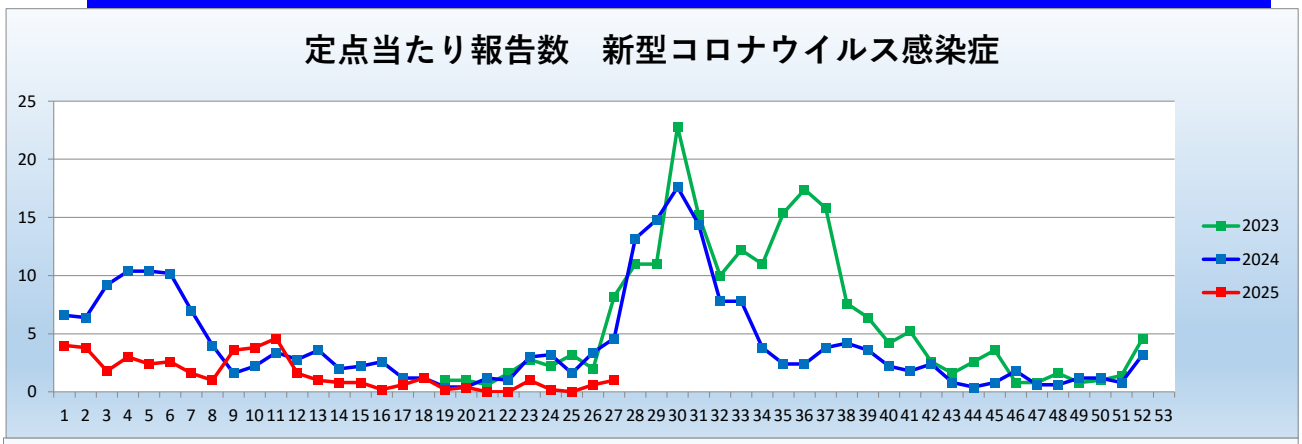
	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

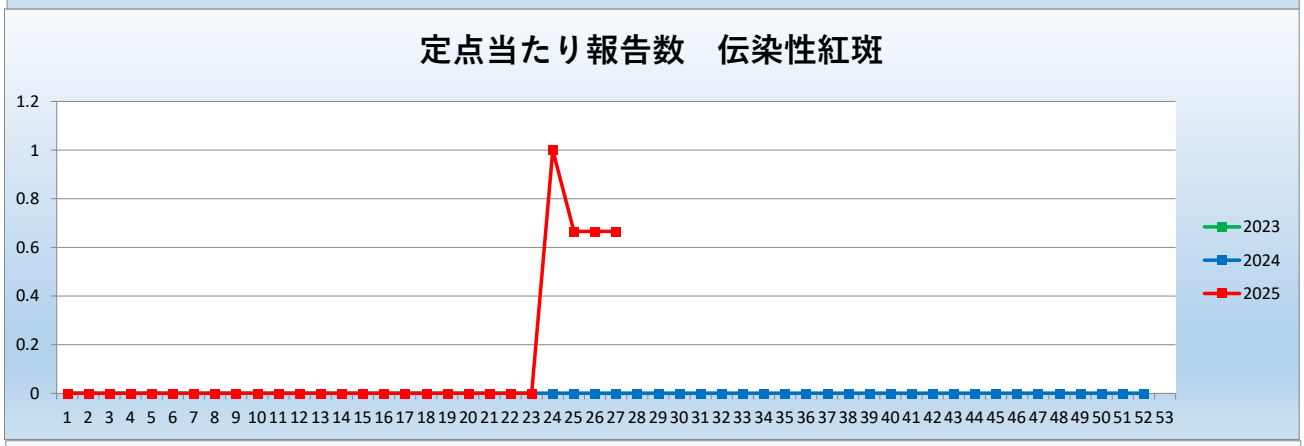
★ R5.8月1日より大分県は新型コロナウイルスの流行状況を、季節性インフルエンザの警報・注意報を準用してお伝えします。

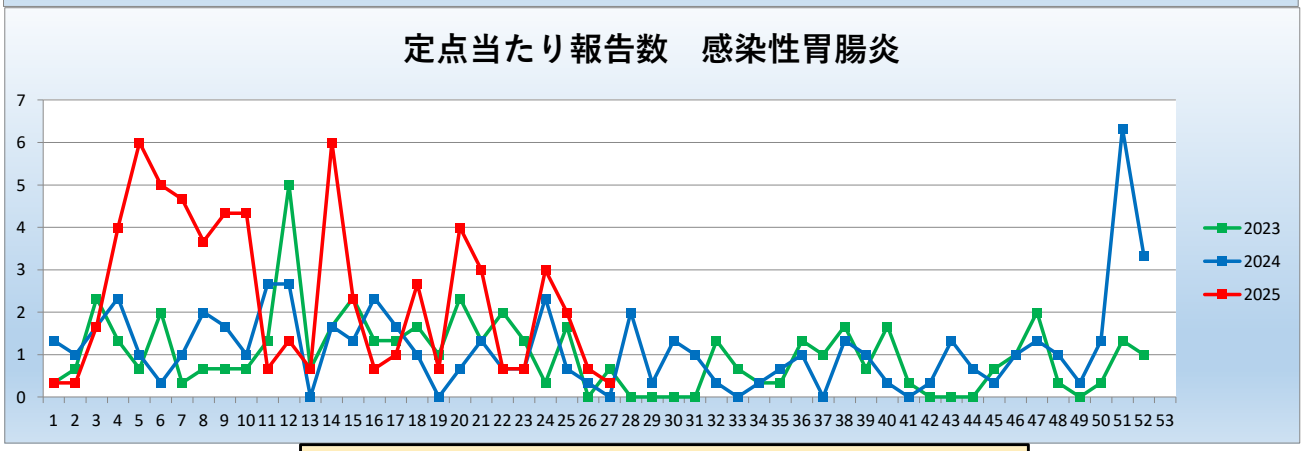
	警報レベル	注意報レベル	注意報レベル
新型コロナウイルス	30以上	20以上30未満	10以上20未満

※警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。注意報レベルは、流行の発生前であれば今後４週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことを、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

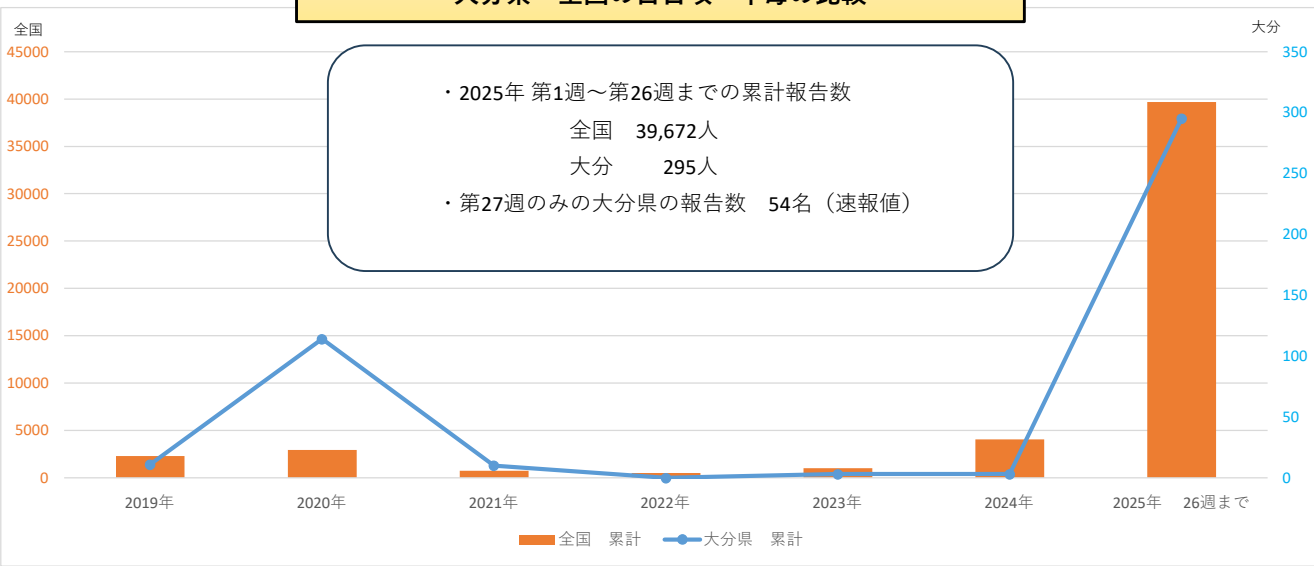
豊肥管内 過去３年間の発生動向







大分県・全国の百日咳　年毎の比較



お問い合わせ：大分県豊肥保健所　電話（０９７４）２２－０１６２

感染症対策

伝染性紅斑（でんせんせいこうはん）

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから
「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。

10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が最も多くなります。

こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは１週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

感染症対策

百日せきにご注意ください

百日咳菌の感染によって、激しいせきを特徴とする急性の気道感染症です。

乳幼児では、激しいせきによる

無呼吸発作（むこきゅうほっさ）

チアノーゼ
顔色や唇、爪の色が紫色に見える状態

けいれん

呼吸停止

に進展することがあります。

こんな症状がみられます

カタル期（約２週間持続）
かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

▼

痙攣期（けいれん期）（約２～３週間持続）
発作性、けいれん性の咳が出るようになります。合併症として肺炎や脳症などもあり、乳児では注意が必要です。

▼

回復期
激しい発作は次第に減衰し、やがて回復に向かいます。回復まで、全経過で約２～３か月かかります。

予防と対策

百日せきの予防には、生後２か月から定期接種として接種可能な５種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。ただし、接種後年数が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。

せきが続く場合は、医療機関の受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急 https://kodomo-qq.jp/」のサイトを参照したり、「＃８０００（こども医療電話相談）」にご相談ください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省
感染症対策課 2025年5月作成